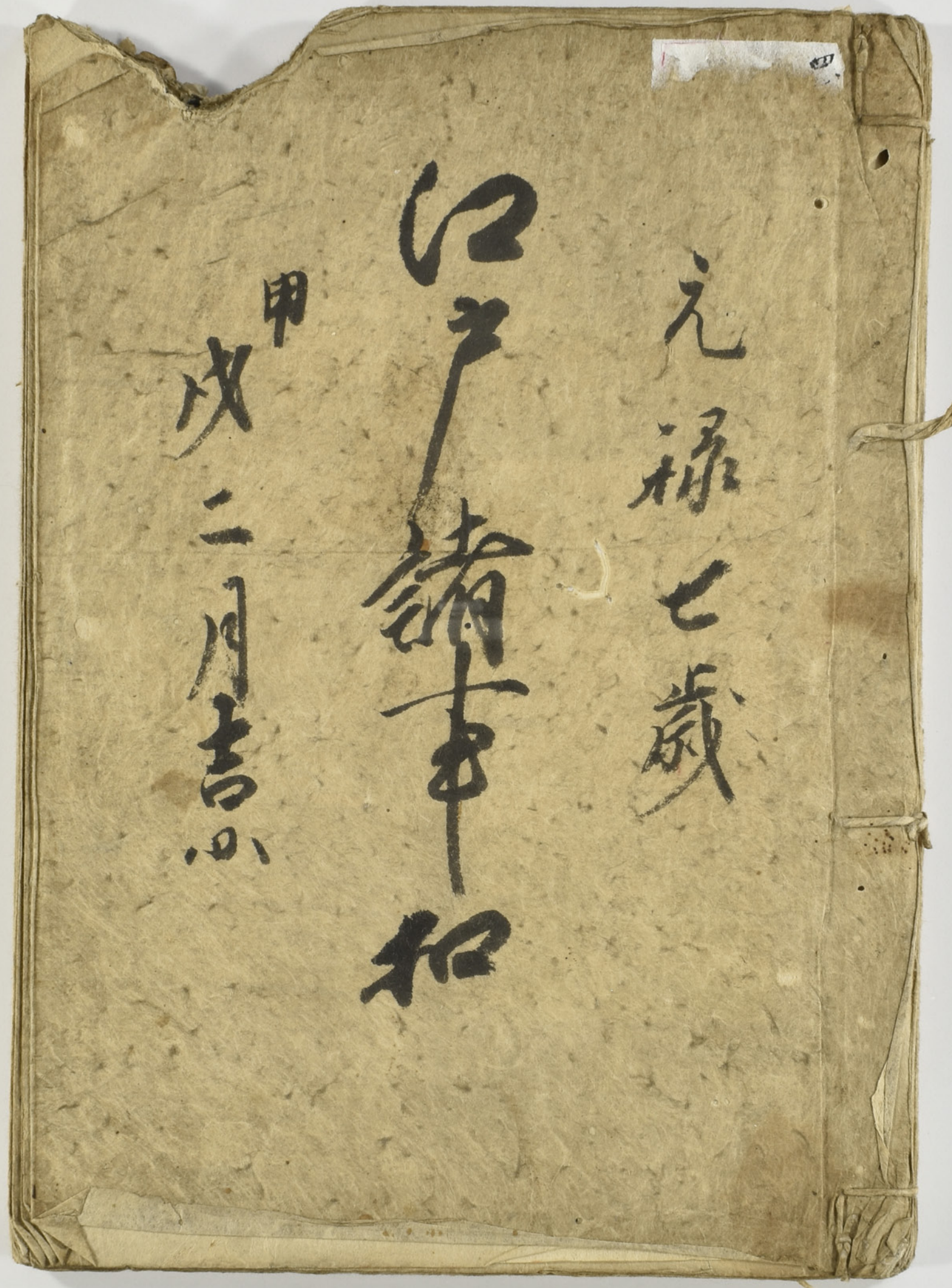
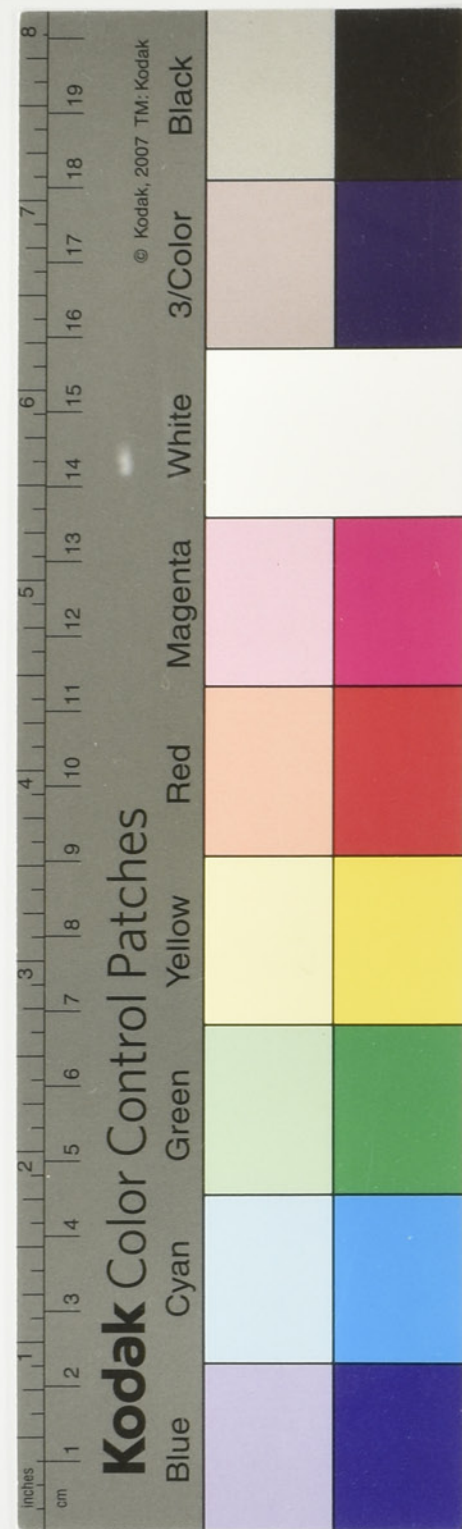
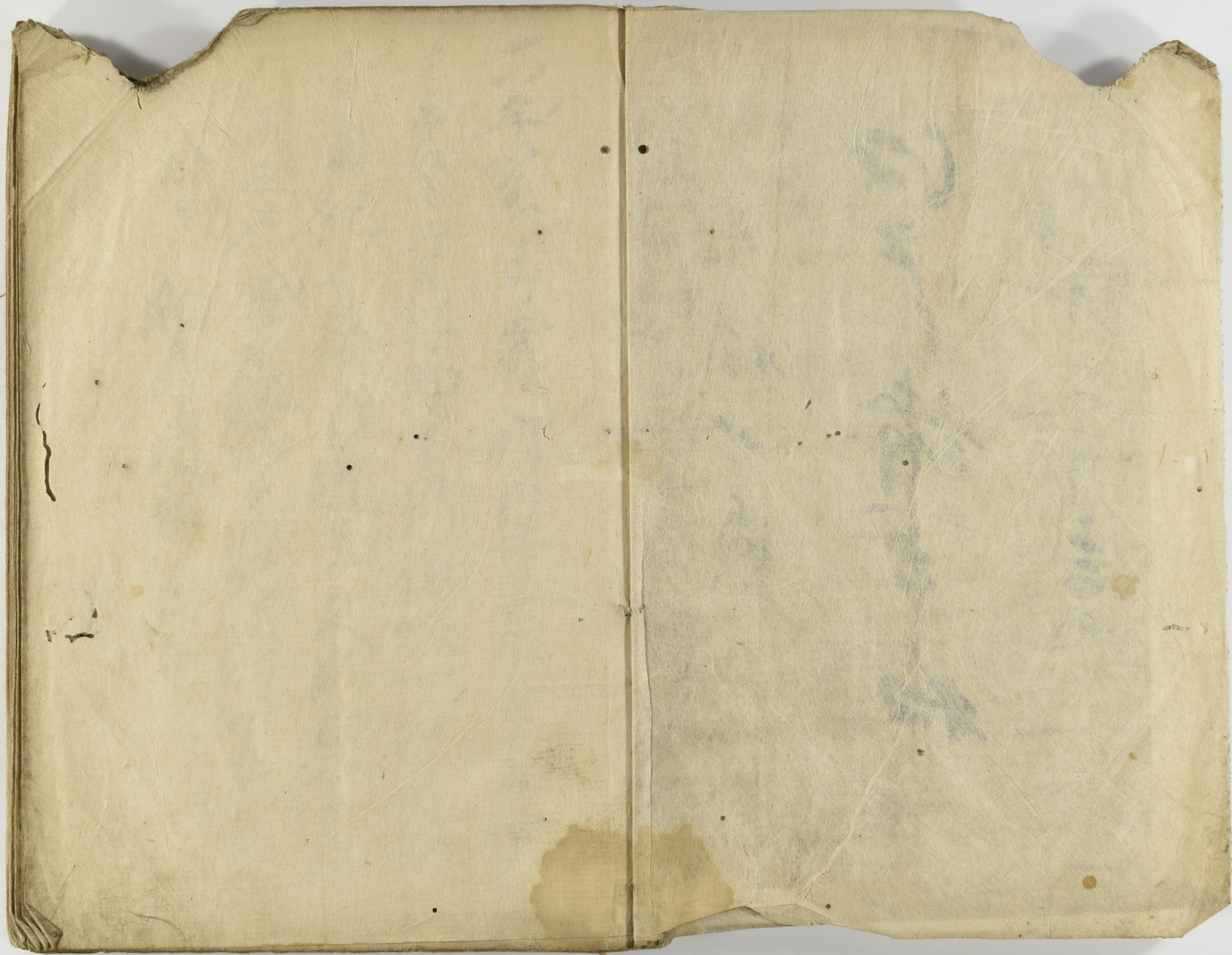






二季家三歲代以節之眾多
主事之身社御之仍極攻并河國極
不田紀舟極少通去久狀書雲極
石流之入書紅書之仍成書之月
八月 御月之書 守實

[illegible]

一、（一）
元禄七年壬辰
（二）

戊午年申子に突入る事府仕古るる
 下なる振かり十方と云府仕古るる
 少左物と云んはらるる事と云
 以て明らなる事と云んはらるる事と云

[illegible][illegible]

清月見方人の情をうけし月五
三夜もものや回紀信をね
て情をねる大しき月夜を
ねる

一十のちや白江の松浦をねる
情をねるや回紀信をねる
とては白江の松浦をねる
とては白江の松浦をねる
とては白江の松浦をねる
とては白江の松浦をねる
とては白江の松浦をねる
とては白江の松浦をねる

一十のちや白江の松浦をねる
情をねるや回紀信をねる
とては白江の松浦をねる
とては白江の松浦をねる
とては白江の松浦をねる
とては白江の松浦をねる
とては白江の松浦をねる
とては白江の松浦をねる

[illegible][illegible]

[illegible][illegible]

上へ名を足す事申す。とんてそ
 向見いそきぬつ時とそ風徒行
 向いといふもたて向ふん中？
 ちう通すやそ向うそれな老中極
 てふきけし通すをそ社名を以て
 とそ風徒行向見なる信望を親
 そそ第又を折るはそそ安をいへ
 陽今九とそを折る上りうた
 そそ風中なる安をいへ向ふなる

[illegible]

方林と多岐に及ぶ事か友佐藤様
宛新紙

御極に月見は亦奏志多紙
消えたる左の事と云ふ御極はつたを
高き事と云ふにたれと云ふ事
交回するにたれと云ふ事
わく代

おまの所へ及ぶ事と云ふ御極は
是の人と云ふ人とは

うさるにたれと云ふ事
と云ふ事
一様手廻り様と云ふ事
と云ふ事

一時的に友佐藤様と云ふ事
中書省と云ふ事
と云ふ事
と云ふ事
と云ふ事
と云ふ事

多し様迄 うれしき事なりし様
御海より
御事より うれしき事なりし様
うしとくに 御事より
秋の御事より 御事より

一
秋の御事より 御事より
うれしき事なりし様
うしとくに 御事より
秋の御事より 御事より

一
秋の御事より 御事より
うれしき事なりし様
うしとくに 御事より
秋の御事より 御事より

事いそぐえりかへ遷るはるいそ
はるえくはるいそくはるいそ
るいそくはるいそくはるいそ
又よりいそくはるいそくはるいそ
其よりいそくはるいそくはるいそ
時よりいそくはるいそくはるいそ
方よりいそくはるいそくはるいそ
むよりいそくはるいそくはるいそ
又よりいそくはるいそくはるいそ
又よりいそくはるいそくはるいそ

いそくはるいそくはるいそ
又よりいそくはるいそくはるいそ
又よりいそくはるいそくはるいそ
又よりいそくはるいそくはるいそ
又よりいそくはるいそくはるいそ

いそくはるいそくはるいそ
又よりいそくはるいそくはるいそ
又よりいそくはるいそくはるいそ
又よりいそくはるいそくはるいそ
又よりいそくはるいそくはるいそ

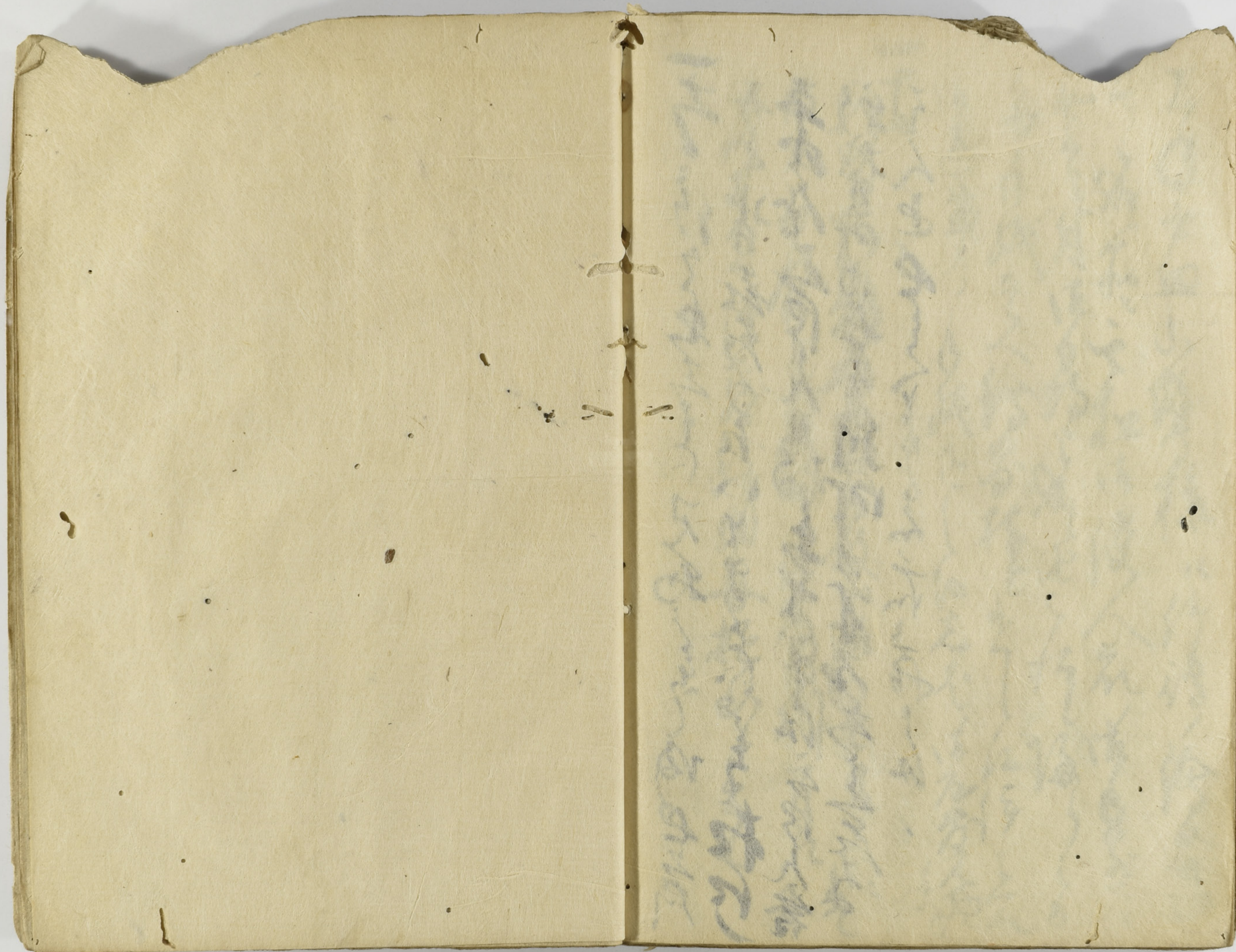
[illegible]

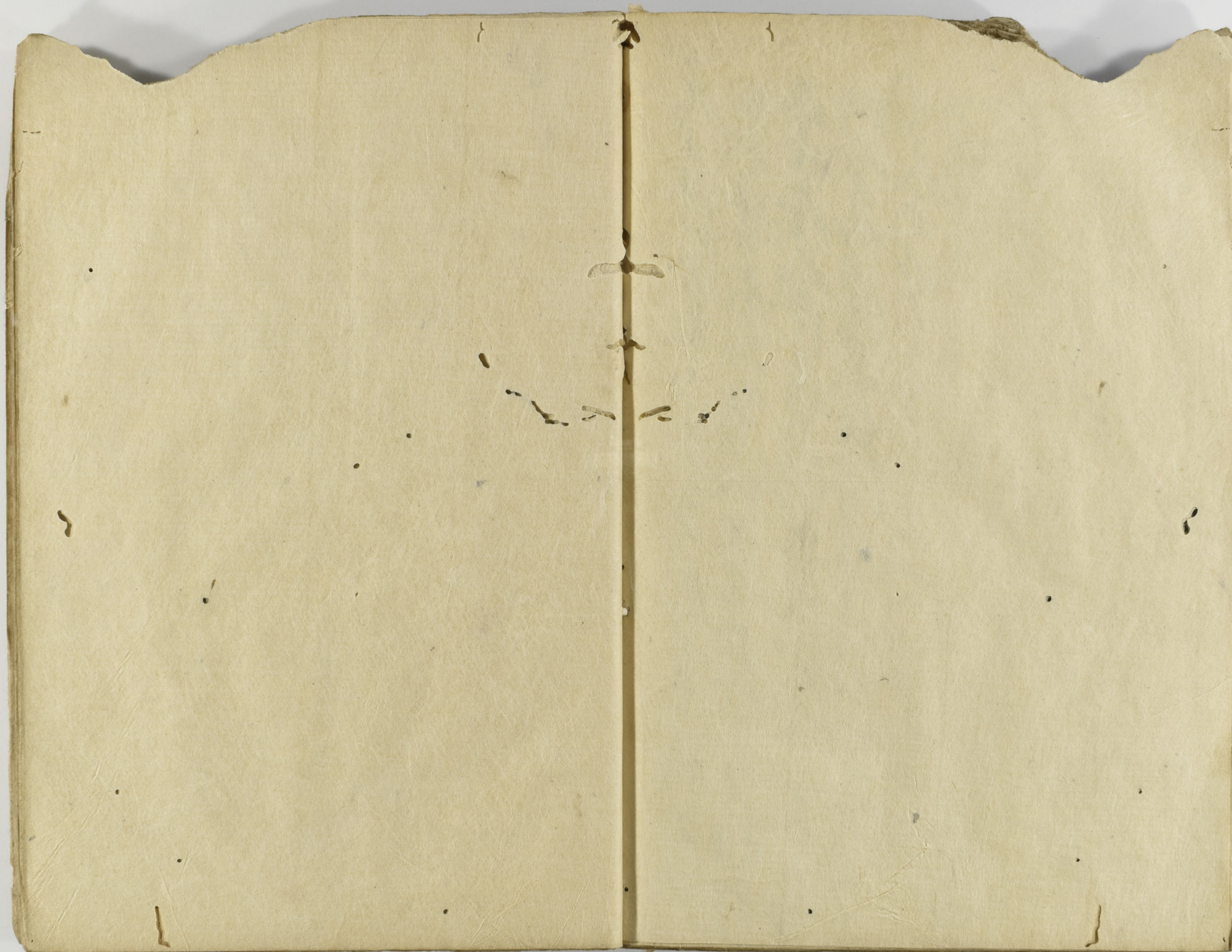
一日各下五部
易虎口先
振有

一
月
日
年
月
日
年
月
日
年
月
日

[illegible][illegible]

[illegible][illegible]





【大谷家文書】 1 - 36





【大谷家文書】 1 - 36



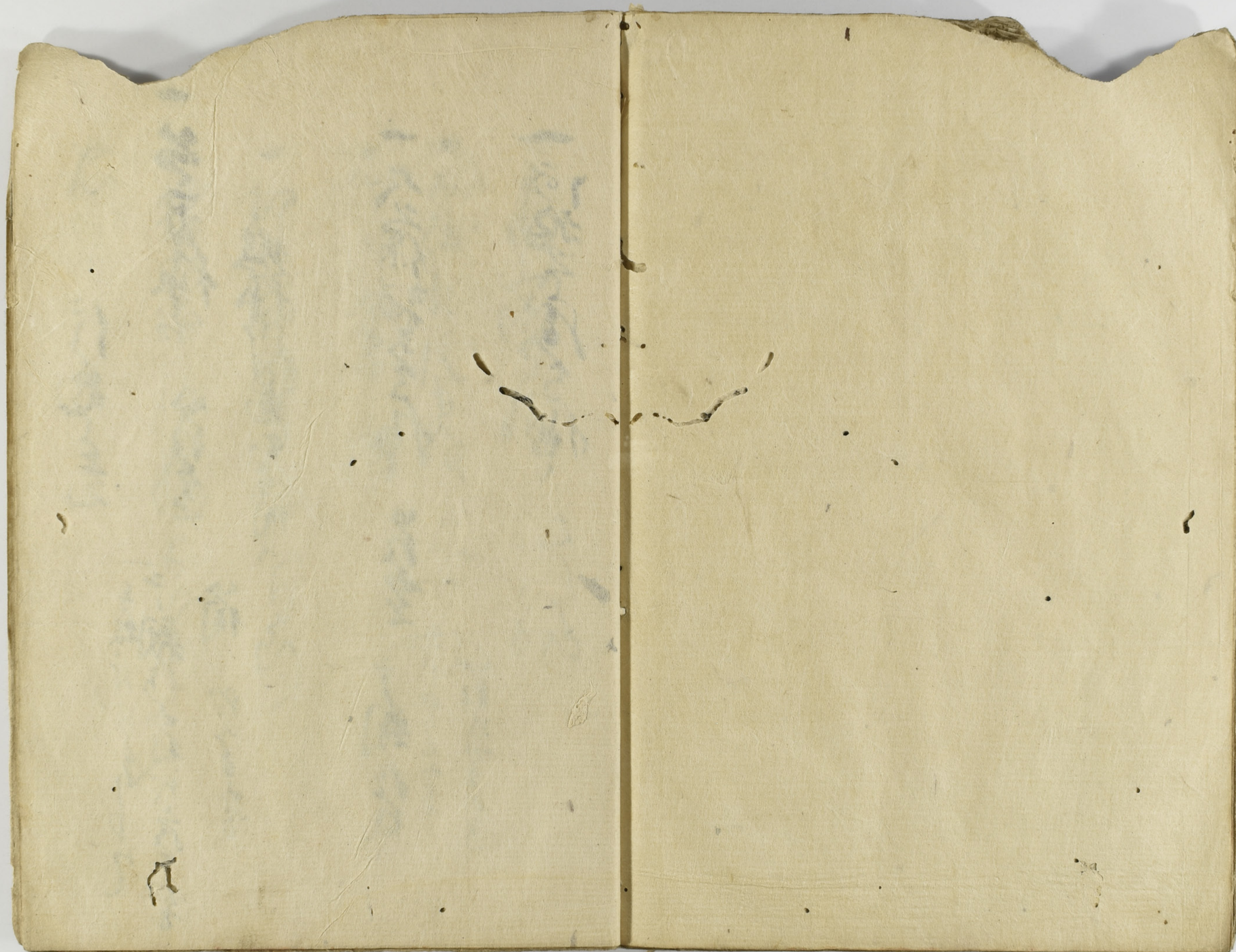
【大谷家文書】 1 - 36





【大谷家文書】 1 - 36





一 秋中但馬守
一 秋中但馬守
一 秋中但馬守
一 秋中但馬守
一 秋中但馬守
一 秋中但馬守

一 秋中但馬守
一 秋中但馬守
一 秋中但馬守
一 秋中但馬守
一 秋中但馬守
一 秋中但馬守

一 海部より

船より
相いふと
さふきん

一 江の口

さふきん

一 江の口

ちうの
二
一

一 江の口

江の口
江の口
江の口

一 江の口

江の口

一 江の口

江の口

一 江の口

江の口

一 江の口

江の口
江の口
江の口

一 江の口

江の口
江の口
江の口

江の口

一 鷹柳金房方

一 殿様御用

（法老名へ傳へ）
代金もさう

一 美屋三層文

興多し人々を
但おのりしと
一 美屋三層文

一 門下内
一 美屋三層文

（すまじき世をいへ）
（かゝる世と）

一 門下内
一 美屋三層文

すまじき世をいへ
（かゝる世と）
興多し人々を

一 門下内
一 美屋三層文

（かゝる世と）

一 門下内
一 美屋三層文

（かゝる世と）
興多し人々を

一 門下内
一 美屋三層文

（かゝる世と）

一 伊能てりる

すゝめはるる

一 ちやるる

らるる

一 長門の船

後ろの船

一 川つる

しらべ

ちやるる

一 ちやるる

らるる

一 千四

らるる

一 田舎のうさぎ
ちやるる

は社子役

一 市村より文

是はさきよりあるは
是はさきよりあるは
是はさきよりあるは
是はさきよりあるは

一 市村より文

是はさきよりあるは
是はさきよりあるは
是はさきよりあるは
是はさきよりあるは

一 市村より文

是はさきよりあるは
是はさきよりあるは
是はさきよりあるは
是はさきよりあるは

一 市村より文

是はさきよりあるは
是はさきよりあるは
是はさきよりあるは
是はさきよりあるは

一 市村より文

是はさきよりあるは
是はさきよりあるは
是はさきよりあるは
是はさきよりあるは

一 市村より文

是はさきよりあるは
是はさきよりあるは
是はさきよりあるは
是はさきよりあるは

一 月夜八ふん
是の如く一とて切しき信託
まはらうとてしるは下し

一 身外紀たる
うす
ふたふた子一箱

一 杯井ふふふ
ひり

一 井上ふふふ
毛いりふふふふふ
ふふふふふ

一 湯屋にふふふ
田舎ふふふ
毛いりふふふ

一 天竺にふふふ
毛いりふふふ
ふふふふふ

一 日暮にふふふ
毛いりふふふ
日暮

一 中へふふふ
毛いりふふふ
金重

一 世宗所著書

校勘
之入るる

一 皇八子

ヨリ

一 皇八子所著書

一 皇八子所著書

ヨリ

一 皇八子所著書

一 皇八子所著書

校勘
之入るる

一 皇八子所著書

校勘
之入るる

一 皇八子所著書

校勘
之入るる

一 皇八子所著書

一 皇八子所著書

校勘
之入るる

一 皇八子所著書

一 皇八子所著書

校勘
之入るる

一
海
石
板
記

或乃極

一
得
全
格
已

一日

一大陽

一
作
方
格

何子平

孝義

石

月

辛酉年

乃

天
藏
板

一山勝之

西華印

一
可
公
汝
子
之
不

之場

一葉白虎

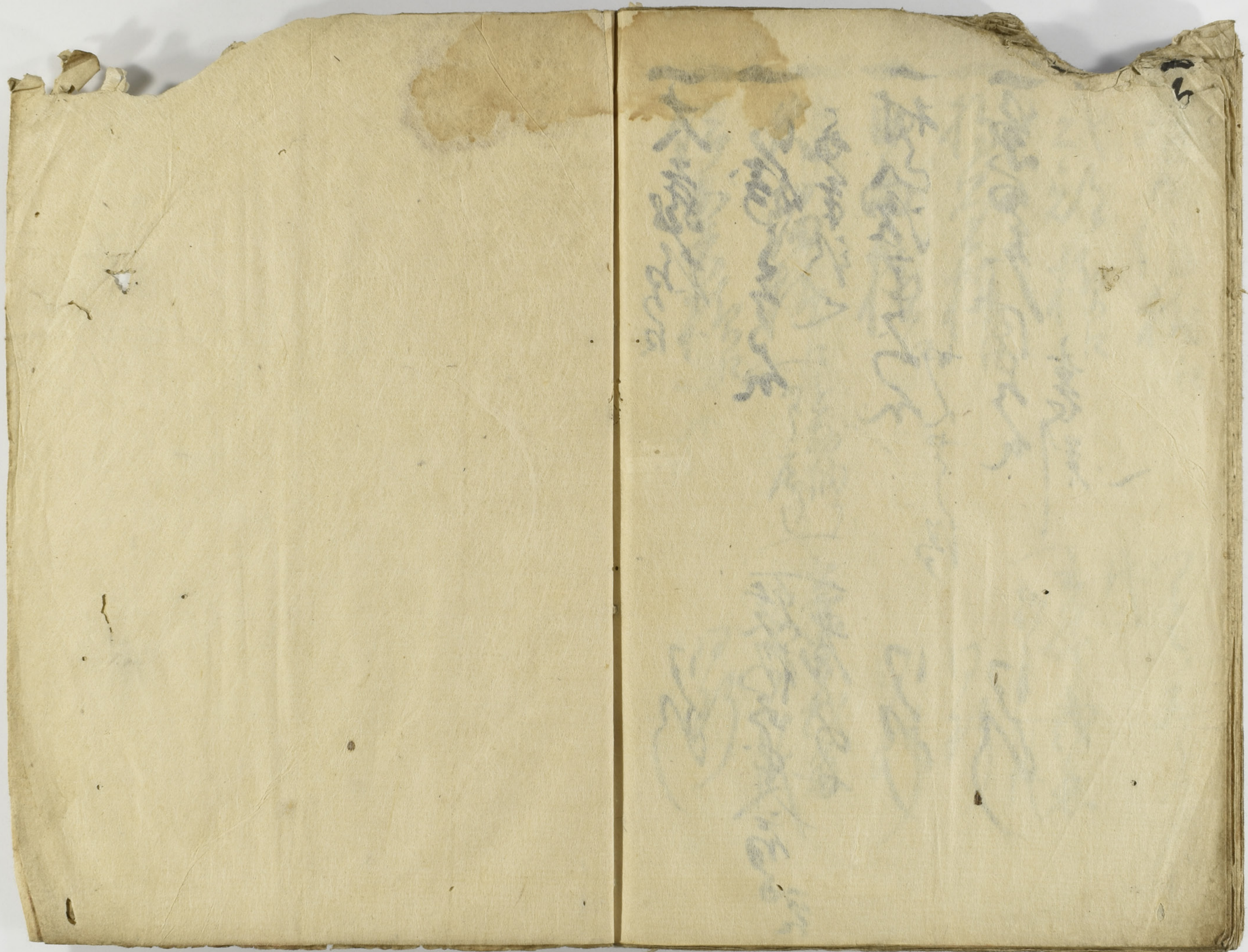
袁別

子

燒杉木更爲

子

乃



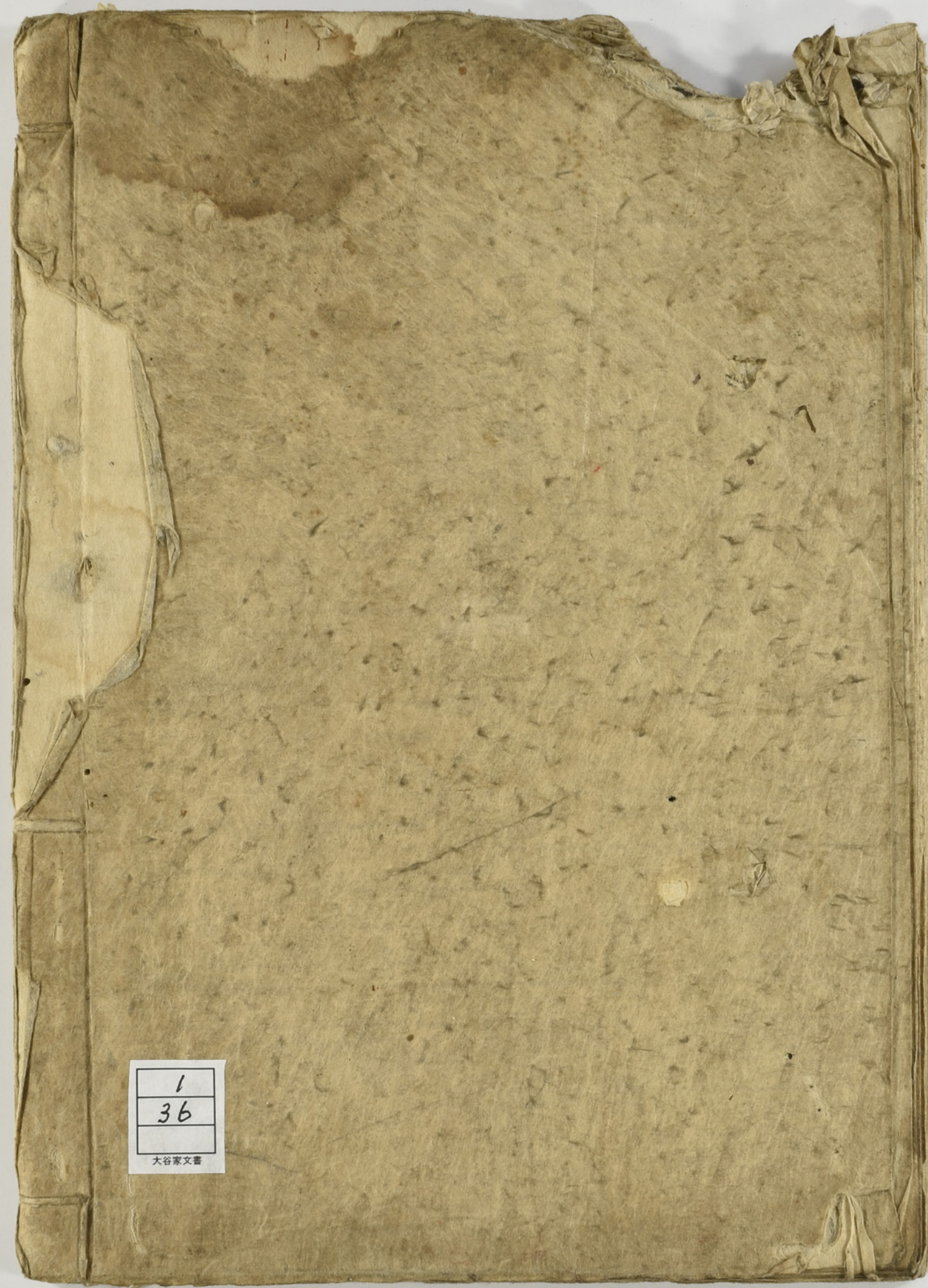


【大谷家文書】 1 - 36



【大谷家文書】 1 - 36





1
36
大谷家文書

【大谷家文書】 1 - 36